



2

1.取材はイルサルトにて。あっという間に時間が過ぎていきました 2.綿業会館の前でも撮影 3.4.オウドウビッシュさんのオーダーメイドジュエリー 5.愛溢れる泉さんのお話に二時間聞き入ってしまいました



5



3



4

会社でしか経験できないこともある。という父のアドバイスもありました。でも実はパナソニックにいきたかったのです。英語が得意だったので海外事業部で仕事をしたいくて。学校の成績もよかったので推薦も当然もらえるだろうと思っていたのですが結局もらえませんでした。理由を聞きにいったら「パナソニックはあなたみたいに我が強い女性は望んでいない」と一言（笑）。えーショックーと思ったのですが、気持ちをすぐ切り替え日本生命の内定をもらい3年間はたきました。そして結婚退職。遠距離恋愛の末結婚した主人の住む東京へ退職後引越。日本生命の東京にあるシステム開発の部署に異動。実はそのときすでにジュエリーで独立することを決めていたので退社し、鑑定士育成の専門学校に通いました。

なぜジュエリーだったのか？というところ

大事とかんがえた結果の判断でした。そしてかなりたかい精度で見極めができるようになってきたので、次はデザインの勉強をしようとオリジナルジュエリーを企画販売する会社に転職。さまざまなデザインを企画しジュエリーの魅力にどっぷりはまっていたのですが、あるとき会社から外務省・農林水産省・郵便局・銀行などで職域販売をする部署にいつてみないか？という話をいただきました。企画として営業経験があれば独立できるチカラがつくと思ひ異動をしたのですが、この選択がのちに人生を大きく変える決断になるのです。

人とコミュニケーションしながら目の前で喜ぶ顔をみたい

ジュエリーを買うのは元気で前向きなとき。落ちこんで暗いときに買う人はいません。自分をさらに輝かせたい、そんな前向きな人ばかりなので一緒にいてとにかく楽しい。一緒に旅行にいつて人生の話をしたり、お客さまではなく大事な友人に変わつていきました。そんななかやはりわたしは人を喜ばせることが好きなんだって気づいたのです。父のお店を手伝ったときなぜあんなに心が躍ったのか？このとき、ぐく腹に落ちました。そして主人が大阪にもどると一緒にどどり、その会社の

大阪支店ではたらきはじめてました。しかし暫くして大阪支店を閉めることになり、そのタイミングで会社をつくろうと決め3人で会社をたちあげました。今はしていませんが創業当初はビンテージの服もあつかっていました。ヨーロッパのビンテージをすごく好きな友人がいて、その彼女もいっしょに南船場でジュエリー兼ブティックをはじめたのがはじまり。なぜ南船場だったかというと、加工とかをいろいろやっている職人がいる宝石の街だったから。前の会社で取引している先もあったのですが、独立したからには0からやろうと思ひあたらしい取引先を開拓していききました。会社名のオウドウビッシュとはフランス語。70年代のアイラインの入れたのと。アイラインをキツと入れる感じってすごくカッコイイので会社名としました。

3馬力ではじめてオウドウビッシュですが、ビンテージ服の担当する彼女が妊娠し2馬力に減りました。わたしは服のことはわからないのでジュエリー一本に絞ったところ、もう1人の彼女も妊娠。わたし1人になってしまったのです…。開業するときに1000万近い借り入れもしているの、もうやるしかないと思腹をくくって死に物狂いではたらきました。

開業していきなり大ピンチがきたのですが、とにかく売上を作らないといけないのでネット販売もしました。でもネットはカンタンに比較できるので価格競争に

